

6. 事業内容	<p>本事業は、対象地域3州において、地域学習センター（CLC）を設立し、教育関係行政機関及び地域住民と協力の下、センターの運営の自立化を支援するための研修及び教材作成等を支援するものである。そしてセンターという空間に地域住民が集い、知識や技術を学び、様々な機関や団体との結びつきの中で、自己および地域の開発につなげていく。なお、本事業は全体で5カ年の計画であり、そのうちの最初の3年間は日本 NGO 連携無償資金協力申請事業とする。残りの2年は自己資金による継続活動・フォローアップを行う。2年次の具体的な活動は以下の通りである。</p> <p><u>1) 地域学習センター（CLC）設立及び運営指導</u></p> <p>CLC及び多目的ホール3～5館目の建設及び運営指導を行う（3館目は2014年7月から建設開始済）。2年目となるCLC1、2館目についても運営指導を続けるが、センターの自立運営化を目指し、運営はCLC委員会、能力強化研修の開催は教育省主導というように、活動において関係者それぞれに1年目以上の責任と役割を求めていく。また、1年目に作成した運営マニュアル2種を、センター職員の実体験や住民の声などを反映しつつ、より実用的なものに改訂していく。</p> <p><u>2) 識字教室を通じた基礎スキル（読み書き・計算）の提供</u></p> <p>教育省の運営により、CLC#1～5において識字教室を定期開催し、住民の基礎教育の向上に貢献する。教育省の教室運営能力を強化するため、各センターの識字教員及び管轄行政担当官を対象に、成人に対する教授法の研修会を実施する。また、識字教室のカリキュラム、教科書、教授方法の改善案を教育省と協議していく。この他にも、専門家指導の下、成人向け識字教材の開発・出版（2年目）を行う。</p> <p>なお、教育省は教室開催規程を見直し、開始時期の一律化（3月～10月）を発表した。このため、CLC#1、2では来年3月まで、独自の識字教室への準備コースを開催し、3月からCLC#1～3にて、教育省運営教室を開催予定である。</p> <p><u>3) 識字後プログラムの改善、構築・拡充</u></p> <p>センター開館後、識字後プログラムの一環として、生活向上を目的とした体験講座（炭を利用した濾過機、熱効率のよいかまど、肥料生産型トイレの作り方等）を開催する。定例活動のモニタリングを通して、この講座開催をフォローアップしていく。また、識字後プログラムの新たなコンテンツの開発を続ける。</p> <p><u>4) 対象集合村にて地域学習センター（CLC）に対する認知度の向上</u></p> <p>CLC推進ポスターの作成や移動図書館活動を通じて、地域においてセンターの広報活動を行っていく。広報活動においては、運営委員会とセンター職員が実施できるよう指導していく。なお、対象地域におけるCLC推進番組放送は、費用対効果の観点から、ラジオでなく対象地域の寺院の拡声器を使用することに変更した。</p>
---------	---

5) 関係局・団体・組織間のネットワーク構築

教育省や他団体が開催する会議に参加し、報告・情報共有を行うことで、当会が目指すCLCモデルケースの浸透を図っていく。今年度からの変更点は、上記の目的をより効果的に達成するため、他団体とCLCネットワークを設立し、教育省中央レベルでの政策提言活動により力を入れる点である。

対象地域は、教育レベルが低く、非識字者及び低識字者が多い、収入不安や貧困など生活において様々な問題を抱える集合村に絞った。その中で、活動の実施、他への波及効果、運営の自立化、活動の持続性などを鑑み、管轄郡教育局ないし集合村協議会には土地の提供、人件費、運営費の予算化を合意することを条件とした。しかし、CLC#4と5の対象地域に関して、当初対象予定地であった管轄郡教育局ないし集合村協議会の事情により提携が困難となったため、選定条件を同様に満たしているバンティミンチエイ州モンゴルボレイ郡コークバラ集合村（CLC#4）及び同郡オープラサット集合村（CLC#5）に変更することにした。（モンゴルボレイ郡は、「NGO事業補助金」を活用した調査の対象郡である。）

バンティミンチエイ州は、タイ国境沿いのカンボジア北西部に位置し、交易や出稼ぎなどに従事する人々も多く、タイ、カンボジア二国間の政治及び経済的影響を直接受けやすい。対象集合村は、国道に隣接し比較的発展が進みつつある村がある一方、発展から取り残された村も存在する。この地域の多くの人々は農業に従事しているが、灌漑施設が限られていることから収穫は天候に左右され、不作時には収入が途絶える。

2010年の政府の集合村データによると、コークバラ集合村では、25歳から60歳の非識字率は10.81%、オープラサット集合村においては、14.76%となっている。ユネスコによると、当国の農村地域の非識字率は、自己申告制であることが多く、実際には公式発表数字よりも1.5倍から2倍程高いと指摘している。¹ 非識字者、低識字者の人々によると、行政による主要な情報は公共掲示板など含め、書面によるものも多く、正確な情報を得ることができない、処方箋が理解できないなどの生活上の不安や不便を抱えている。そのほか、バンティミンチエイ州は、アクセスが非常に悪い村も多い中、当事業対象地域であるモンゴルボレイ郡は、郡の中心地が国道線上に位置し、4つの郡に隣接している為、周辺の集合村の住民が実際に地域学習センターを利用することによる裨益や、成功例として会議で発表され、郡の教育局のガイドラインの見直が行われて認知されるなど他郡への波及効果も期待できる。

対象地域の裨益者	州・郡・集合村	直接受益者数（集合村総人口）	間接受益者（郡総人口）
1	バンティミンチエイ州 モンゴコ	7,938人	92,972

¹ “Literacy: Poverty and Development” UNESCO.
<http://www.unesco.org/en/efa/international-cooperation/e-9-initiative/8th-meeting/main-theme/poverty-and-development/>

		ルボレイ郡コークバラン集合村		
	2	バンテイミンチェイ州 モンゴコ ルボレイ郡オープラサット集合村	14,567 人	92,972
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	<p>1) 地域学習センター（CLC）設立及び運営指導</p> <p>【これまでの成果】</p> <p>地域学習センター建物の建設は計画通り進捗している。1棟目（CLC#1）は完成し開館に向けて準備を行っている。2棟目（CLC#2）も順調に建設作業が進んでいる。両館関係者の運営能力強化に関連した活動も概ね計画通り進捗し、運営委員会とセンター職員への能力強化の影響がオーナーシップ意識等に現れている。研修後は、CLC建物の建設にあっても、運営委員会及びセンター職員を窓口調整を進められるようになり、建設において、積極的にモニタリングを実施し、課題を報告するといった連携がなされるようになった。また、住民参加の一環として、建設の土台となる土盛り作業を住民が担っているが、当センター建設には通常の建設に必要な土盛りの2倍の費用がかかっているにもかかわらず、両館ともにすべて住民からの資金調達を運営委員会、センター職員が調整したことは特筆すべき点である。</p> <p>【課題・問題点】</p> <p>CLC運営マニュアルの作成に関して、初年度の事業実施から農村の現状を把握していく中で、住民にとって分かりやすく、使用しやすいものにするための協議が重ねられた。これにより、当初の予定よりマニュアル作成が遅延したため、関連研修会の開催も延期した。また、研修会の開催については、コミュニティからの参加者が、通常採用している集中講義型の研修には不慣れであることが判明した。</p> <p>【対応策】</p> <p>前者の問題については、1年次後半に解消され、他の活動日程に大きな影響を与えないため、特に対応策を必要としない。後者については、今後の研修会等の時間及び期間設定を短めにし、内容もエクササイズを中心としたものに変更することで対応する。</p> <p>2) 識字教室を通じた基礎スキル（読み書き・計算）の提供</p> <p>【これまでの成果】</p> <p>識字教室開催の事前準備として、センター職員及び対象州・郡教育省職員を対象に、成人向け教授法の研修会を実施した。本研修会では、政府運営の識字プログラムの問題点が明確化された。研修以前は、教育省職員は問題があることを認識していたものの、問題を解決するためにどのような対策を取るべきか具体案を検討するまでには至っていなかった。しかし、研修を通して、教育局職員からカリキュラム、教科書、教授法の改善点について意見が上がるようになり、これらの改善案を局内で具体化していきたいとのコメントも出された。従って、本事業を通して、教育省職員が改善案を試用し、成果を上げることで、現状のカリキュラムの見直しにも積極的に取り組むようになり、彼らと協力して活動を進めていく素地ができたと言える。成人向け読書教材の開発・出版については、専門家の指導の下、</p>			

進行中である。

【課題・問題点】

現状の教育省識字教室のカリキュラム、教科書、教授法は、フォーマル教育の延長線として作られており、ノンフォーマル教育の現場に適切に対応できていない。

【対応策】

識字教室のカリキュラム、教科書、教授方法の改善案を教育省と協議していく。本事業における識字教室は改善版をもとに実施する。

3) 識字後プログラムの改善、構築・拡充

【これまでの成果】

住民の生活向上に貢献する識字後プログラムの開発のため、住民からニーズを拾いつつ、実験的に一部のコンテンツを共同で実施した。CLC#1では、炭を利用した濾過機と、熱効率のよいかまど作り、CLC#2では、古紙や植物の繊維を利用した紙漉きによる紙作りを実演した。対象地域の住民も地域の材料を使い、莫蔭を作って販売している為、地域の材料を日々の生活改善にも役立てるという点が住民にとって刺激になった。また、CLCでは単にモノづくりだけではなく、モノづくりに必要な情報や知識が得られる機会を提供する場であるという理解が深まった。かまど作りに関しては、すでにCLC運営委員の女性が講師となり、村で自発的に普及活動を行うまでに至った。カンボジアの識字後プログラムは、省内においても未発達であり、具体的にどのような活動を実施すべきかが明確にされていない。本事業の識字後プログラムでは、上記の活動を通して、実際に人々が抱える日常生活の課題解決とうまくリンクさせていくことの重要性が、運営委員会、センター職員、教育局職員間で理解された。対象住民は、収入を得る職務に就く以前に、日々の生活上の課題を多々抱えている。女性の場合、家事への労力を減らさない限り、識字教室に通う時間を確保することが難しい。そのため、日々の生活を改善する活動と識字学習を関連づけていくことで、住民の参加度、学びへのモチベーションが向上した。

【課題・問題点】

住民のニーズに対応する講座を提供するには、多岐に渡る知識が必要になるため、職員の専門外の分野については、他団体との連携など工夫が必要である。

【対応策】

他団体が作成した生活向上を目的とした教材をもとに、プログラムを開発していく予定である。同様に、専門家にもプログラム開発の一部を依頼する。

4) 対象集合村にて地域学習センター（CLC）に対する認知度の向上

【これまでの成果】

成人教育並びにCLC推進関連活動の一環として、推進ポスターや移動図書館活動の成人向けコンテンツの開発を行い、実施中である。本格的な広報活動はこれからであるが、CLC建設においては、資金や労力を提供するなど住民参加型で実施している。そのため、建設対象地域においてのCLC認知度は向上しているといえる。他の事例では研修会や会合などへの

	<p>住民の参加を招集することが難しいと報告されているが、本事業においては予定人数より増加人数が集まることもあるため、少しずつではあるが理解が高まっているとみられる。</p> <p>【課題・問題点】 ポスターや移動図書館活動のコンテンツの開発に若干の遅れが出ている。</p> <p>【対応策】 広報活動においては、住民参加の観点からも運営委員会とセンター職員が自ら実施できるよう指導する。</p> <p><u>5) 関係局・団体・組織間のネットワーク構築</u></p> <p>【これまでの成果】 教育省開催のノンフォーマル教育作業部会、並びに他団体が開催するCLC定期会議に参加し、関連組織との関係構築を行った。その結果、当会が、新たにCLC有識者のみで構成・発足される、教育省主催のCLC作業部会のメンバーに選出された。CLC作業部会では、CLC運営、教授法、カリキュラム、現行課題などの議案が取り上げられるため、本事業の成果を随時共有し、具体的な改善案を提案することが期待される。</p> <p>【課題・問題点】 CLC推進のためには、中央レベルだけでなく州レベルでも、CLC関連会議開催を通して、各CLCのネットワーク化が重要であり、対象州教育局もこの必要性を感じている。しかしながら、予算の権限は中央レベルにあり、州教育局はいまだ予算をつけることができず、CLC関連会議の定期開催に至っていない。</p> <p>【対応策】 郡・州レベルでの政策提言活動は残しつつも、他団体とCLCネットワークを設立し、教育省中央レベルでの政策提言活動により力を入れる。</p>								
<p>8. 期待される成果と成果を測る指標</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="480 1352 1366 1435"> <p>【成果1】CLC委員会・職員・行政担当官を対象に、コミュニティによる運営自立化のための能力強化がされる</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1435 1366 1565"> <p>【指標】(ア)委員会が独自に運営費用を調達できるようになる (教育省負担分の「センター所長給与」と「識字教室運営費」(識字教師給与と生徒の文具費)を除く) 2年目:60%調達</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1565 1366 1608"> <p>【確認方法】委員会財政報告書</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1608 1366 1736"> <p>【指標】(イ)委員会が独自に地域からニーズを拾い活動に反映できるようになる 2年目:当会職員の指導付で実施している</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1736 1366 1778"> <p>【確認方法】月例会議事録、観察</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1778 1366 1951"> <p>【指標】(ウ)センター業務・活動が計画の8割以上実施できるようになる 2年目:計画は当会職員と作成するが、活動は指導なしで8割以上実施している</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1951 1366 1993"> <p>【確認方法】チェックシート、観察</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 2033 1366 2074"> <p>【成果2】識字教室を通して、対象集合村の貧困世帯が基礎スキル</p> </td> </tr> </table>	<p>【成果1】CLC委員会・職員・行政担当官を対象に、コミュニティによる運営自立化のための能力強化がされる</p>	<p>【指標】(ア)委員会が独自に運営費用を調達できるようになる (教育省負担分の「センター所長給与」と「識字教室運営費」(識字教師給与と生徒の文具費)を除く) 2年目:60%調達</p>	<p>【確認方法】委員会財政報告書</p>	<p>【指標】(イ)委員会が独自に地域からニーズを拾い活動に反映できるようになる 2年目:当会職員の指導付で実施している</p>	<p>【確認方法】月例会議事録、観察</p>	<p>【指標】(ウ)センター業務・活動が計画の8割以上実施できるようになる 2年目:計画は当会職員と作成するが、活動は指導なしで8割以上実施している</p>	<p>【確認方法】チェックシート、観察</p>	<p>【成果2】識字教室を通して、対象集合村の貧困世帯が基礎スキル</p>
<p>【成果1】CLC委員会・職員・行政担当官を対象に、コミュニティによる運営自立化のための能力強化がされる</p>									
<p>【指標】(ア)委員会が独自に運営費用を調達できるようになる (教育省負担分の「センター所長給与」と「識字教室運営費」(識字教師給与と生徒の文具費)を除く) 2年目:60%調達</p>									
<p>【確認方法】委員会財政報告書</p>									
<p>【指標】(イ)委員会が独自に地域からニーズを拾い活動に反映できるようになる 2年目:当会職員の指導付で実施している</p>									
<p>【確認方法】月例会議事録、観察</p>									
<p>【指標】(ウ)センター業務・活動が計画の8割以上実施できるようになる 2年目:計画は当会職員と作成するが、活動は指導なしで8割以上実施している</p>									
<p>【確認方法】チェックシート、観察</p>									
<p>【成果2】識字教室を通して、対象集合村の貧困世帯が基礎スキル</p>									

	(読み書き・計算)を習得する	
	【指標】(ア)教育省の識字能力試験に受講者の7割が合格できている。	
	【確認方法】同試験	
	【指標】(イ)受講者の7割がコースを完了する。	
	【確認方法】識字教室記録	
	【成果3】対象集合村の貧困世帯が生活改善ための知識を習得する	
	【指標】(ア)講義参加者の7割が、習得した知識・技術を事業が定めるレベルで生活改善に活用している	
	【確認方法】聞き取り	
	【成果4】対象集合村にて地域学習センター(CLC)に対する認知度が向上する	
	【指標】(ア)対象集合村の住民の4割がセンターの役割及び活動を認知している	
	【確認方法】アンケート	
	【成果5】中央・州レベルにおいて、ノンフォーマル教育及びCLCのネットワークが強化される	
	【指標】(ア)州レベルにおけるノンフォーマル教育作業部会発足の必要性が、中央レベルで認識される 2年目: 当会職員が州レベル部会の必要性について中央部会で発表する	
	【確認方法】教育省ノンフォーマル教育作業部会議事録	